

生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2023年7月13日 19時00分～20時30分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：血液型が判定できない！こんな時、どのように対処しますか？
講演1：関東甲信越ブロック血液センターに依頼された埼玉県内の血液型検査とその詳細
講演2：ABO, RhD 血液型検査 予期せぬ反応の考え方
講演3：ABO, RhD 血液型検査 予期せぬ反応への対処
- 4 講師：講演1：矢部 隆一（関東甲信越ブロック血液センター）
講演2：上岡 誠（株式会社カイノス）
講演3：中島 康裕（株式会社カイノス）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 135名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子
岩崎篤史 廣田渉 川内沙織

8 研修内容の概要・感想など

安全な輸血療法を実施する上で、最も重要といえるのが血液型検査である。血液型検査の手技は細かい留意点はあるが、容易である。しかし、検査結果が予期せぬ反応を呈した場合、どのように考えたら良いか苦慮することも少なくない。本研修会では、埼玉県内で遭遇した症例、予期せぬ反応の考え方、検査の進め方と順を追って研修するものであった。

矢部氏の講演では関東甲信越ブロック血液センターへ依頼された埼玉県内の血液型検査について、よく遭遇する症例や稀な症例に関しどのように検査を実施したのかについて解説があった。血液型判定が困難な場合、血液センターへ相談したり、検査を依頼したりすることも多々あるが、自施設で実施できる検査や必要な情報収集についてなど日常業務で役立つ内容であった。

上岡氏の講演では試験管法による ABO, RhD 血液型検査の基礎知識から細かい検査手技についての講義であった。予期せぬ反応の考え方については、再検査を行い再現性の確認、オモテ検査とウラ検査のどちらに予期せぬ反応が起きているのかそれぞれの可能性を挙げ、一つ

一つ確認していく分かり易い説明であった。

中島氏の講演では講演2の考え方をを用いて、カラム凝集法で予期せぬ反応を呈した症例の進め方についての解説であった。よく遭遇するウラ検査の弱反応では反応時間の延長・至適温度での反応・血漿量の増加、ウラ検査の予期せぬ凝集では室温以下で反応する不規則抗体の存在や寒冷凝集・連鎖形成の確認方法、亜型検査ではABO血液型検査で使用する試薬を用いて吸着解離試験ができるなど、すぐにでも実践できる対処方法が紹介された。

ABO, RhD血液型検査の予期せぬ反応に対処するためには、確かな技術と知識が必要である。そのため、輸血検査に苦手意識を持つ技師も少なくはない。今回の研修会で印象的だったのが中島氏の予期せぬ反応への考え方についての例えで「推理力ゲームのような側面」という言葉である。日々研鑽している技術と本研修会で得た知識をもとに推理・考察し行動に移すことを心がけ、日々の業務の一助にしていきたい。

提出日 2023年7月24日

文責：小原 佑太